

大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第5回地域生活部会議事録
 文責：渡邊委員（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第5回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和5年12月19日（火） 10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	小松代 菜央	小野 英次郎	大場 貴弘
	渡邊 優美	渡邊 晃嗣	青山 明子	金丸 正明
	榎 拓巳	広瀬 健次郎	松浦 好美	橋本 朋子
	区事務局：土岐 親跡 齋藤 鈴木			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <p>(2) 令和5・6年度の活動について 「10年後も住み続けたい大田区へ～世代を超えて知る機会を～」 ・2グループに分かれアンケート結果を元に、アンケートから見えてきた事について話し合いを行う。</p> <p>Aグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙媒体とデジタル媒体で偏りが少なかった。 紙媒体はやはり必要。 区の公式 SNS があまり知られていない。 (ホームページでも見にくい場所にバナーがある) 視覚障がい者が情報を得るのは代読等の支援が必要。 (代読アプリ知ってもらい、活用してもらうこともできる) 区報とHPを今以上にリンクさせていく必要がある。 (QRコードやSNSとの連動等) 情報を上手に得られない人、デジタル媒体を使えない人がいる。 デジタル媒体の使い方のサポートをしてもらう機会を作ることで、情報を得られるようになる人を増やしていけるのではないかと。 障害に関わらず、誰もが情報を得られる方法を検証することで、情報提供の有効な方法を知ることができる。 そのためには、人がどういう関わり方をしていくのが良いか、次年度に考えていきたい。 <p>Bグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 回答者は年齢的に40歳以上の年代が多かった。 本人が主体的に情報を入手するにはどのような支援が必要か。 紙媒体とデジタル媒体の両方から情報を出していく必要がある。 アンケートがわかりやすく、答えやすかった。 どこからも情報を得られない人がいるのではないかと。 今回のアンケートの内容を行政に活用してもらいたい。 <p>※1月の部会で中間報告のまとめを行う。 また、今回の整理と来年度の課題について考える。</p>			

2 その他

次回開催日

作業部会 1月9日(火)は中止

専門部会 1月23日(火)